

第1回基地周辺地区安全対策協議会での各委員からの意見概要

○ 品川委員

「日本人同士のトラブルでは、警察が対応するが、米国人とのトラブルにはどうしたらいいかわからない。訴え出るところが不明確である。政府や自治体が介入するとなしのつぶてになる。トラブルがあったときにどうしたらいいのか？実効ある対策を要望したい。」

○ 上田委員

「12年前から実施している本町・大滝町のパトロールエリアの拡大を提案したい。米が浜町内からの参加も期待したい。この協議会の様々な議論の中で平行して検討してはどうか。」

○ 小林委員

「1月23日に具体的な規制を行っている。飲酒の時間規制や自由外出の規制、基地司令官、第7艦隊司令官自らが機会あるごとに兵隊を教育している。毎月23日にこれらの見直しを図っている。」

○ 横須賀警察署小島委員

「集団による街頭パトロール、車両による機動警戒（レッド警戒）を強化している。今後も継続していく予定である。」

○ 小島委員

「米軍の教育問題、市の安全問題に前向きに取り組んでもらいたい。」

○ 上原委員

「若松町の横浜銀行から若松トンネルにかけて防犯灯がなく、午後10時すぎになると真っ暗になる。防犯灯の設置を要望したい。」

○ 島田委員

「大滝町から小川町マンションにいくところの一角が暗い。さいかやや他の企業にお願いして朝まで電灯をつけてもらっている。防犯灯を要望したい」

○ 加藤委員

「商店街の防犯カメラについては商店街でも金をだすが市でも援助ができないか」

○ 上田委員

「防犯カメラも含めてこの周辺一帯の防犯灯の必要性について、事務局で精査し、設置の方向性を検討してはどうか。また、ハードのみだけでなく、パトロールなどのソフトも検討していくべき。米兵だけではなく、外国人女性の客引きや黒服のキャッチもある。米軍だけでなく、日本人同士の犯罪もふせげるようになればいい。」

○ 品川委員

「横断的な意見の吸い上げをどうするのか」

○ 小瀬村委員

「耳が遠いので、マイクを用意してもらいたい。」

○ 越川委員

「米軍のとした措置、時間規制やアルコールの問題などどぶ板通りには飲酒関係の店もある。米軍との良好な関係を築くためにもお互いが話し合える、交流できる場を作って欲しい。」

○ 加藤委員

「市と米軍が親しく話し合える場をもったのかどうか」

○ 上原委員

「福岡県春日市で、ついで隊というボランティアが4000人いて、市が腕章をつくって万引防止やパトロールに活用しているという。市も試したらどうか」

○ 須藤委員

「米軍との関係は国と国との約束であるが、為政者は現場でおきている様々な問題を認識してもらいたい。そのように取り組んで欲しい。それと平行して地域での取り組みも行なって欲しい。」

○ 委員長意見

- ・ 米兵とのトラブルに対し、どこに訴えたらいいかこの協議会で検討したい。
- ・ パトロールの地域の拡大も協議会で取り上げていきたい。
- ・ 米軍のあらゆる取り組みに感謝している。
- ・ 警察に対し、米が浜や基地周辺のパトロール強化に感謝している。
- ・ 現状を把握しそれぞれの取り組みを理解しつつ、今後どうやって市民も米軍も安全な街にできるのかの検討の場としたい。
- ・ 防犯灯の設置要望については要望として受け止める。
- ・ 市民協働や企業協力も巻き込んだ地元の取り組みの提案は大変ありがたい。
- ・ 防犯灯の問題や米が浜に防犯カメラをつけることについてトータルで考えたい。防犯カメラをつけてしまえばそれでいいということではない。この協議会での話し合いは長く続けることは考えていない。結論はだしたい。しかし、協議会そのものは存続していく。
- ・ 様々な意見をきくために多様な方を委員として入ってもらうこともある。
- ・ いろいろな意見をだしてもらいたい。この場で決め付けることではない。
- ・ 米軍も、2、3ヵ月後にまた情報を提供してもらいたい。米軍に入ってもらった意義がそこにある。
- ・ 米軍との話し合いをつづけ、経過報告を求めていく。そのことで抑止力にもなる。協議会を設立した意義は、米軍の参加があることである。今後の取り組みの中で、更に変化していくことも期待できる。
- ・ 春日市の取り組みについて、ひとつの提案として受け止めたい。
- ・ 今日第1回目の協議会として多様な意見を聞く場とした。この語の方向付けを図るために、事務局で検討課題を精査して、次回お示ししていくようにしたい。

- ・ 4月20日までに、委員の皆様から意見を聴取する。第2回の協議会では、きちんと方向付けを図りたい。
- ・ 次回日程については5月10日（水）14時からとしたい。